

はじけるこころ

Vol.56

まいにち学校 まいにち街 中 こどもの笑顔につなげる

編集・箕面市人権教育推進会議
発行・箕面市教育委員会人権施策室

TEL:072-724-6921
E-mail: eduinken@maple.city.minoh.lg.jp

令和5年(2023年)12月

この情報紙は、保育所・幼稚園・小中学校の保護者をはじめ、広く市民のみなさんに、身近な人権教育の話題を知っていただくため、市民参加方式で編集したものです。

ご家庭でお子さんと、あるいはご近所や職場のかたと、こうした話題にふれて、語り合っていただけばと思います。

異年齢交流

「ぽかぽかタイム」

(かやの幼稚園)

かやの幼稚園では、4歳児と5歳児が年間を通じて同じメンバーでグループを作り、集団遊びやオリエンテーリングなどの活動に取り組む異年齢交流「ぽかぽかタイム」を行っています。

年間通して同じメンバーで活動することで、4歳児は自分のことをリードしてくれる5歳児の姿に安心感

をもって参加し、年長へのあこがれをもつ姿、5歳児は自分より年下の4歳児が上手く活動に参加できるように気持ちに寄り添ったり、言葉のかけかたを工夫したりする姿など、同じ学年での活動の時とは違った様子が見られます。

今回は9月に行ったオリエンテーリング「ようちえんにあるものさがし」の様子をお知らせします。

「どこから行く?」

幼稚園の中には意外と子どもたちが気付いていないものや、夏休み中に新しく増えたものもあり、各グループが「やってみよう!カード」を見ながら描かれているアイテムを探し、見つけたらシールを貼るという活動をしました。

まずは、どこから行くか相談が始まりました。「これ知ってる!」と走り出す4歳児に「待って!みんなで行かんとかかんやん」とグループがそろっているか確認する5歳児の姿。

もくじ

異年齢交流

「ぽかぽかタイム」

(かやの幼稚園)

1

学級づくり

「シンキングエラーを知って

トラブルを防ごう」

(箕面小学校)

3

あすチャレ!スクール

「挑戦することの意義とは」

(豊川北小学校)

4

いきいきさわやかに学ぶ会

「つながっている

こころとからだ」

「こころを見よう

からだに聴こう」

5

学校図書館司書コーナー

「本を通じてお互いを知る」

「校内ビブリオバトル大会」

(第二中学校)

7

編集後記

8

「あっちから行こう」、「えー、こっちがいい」と主張し合うグループでは、「じゃあ、こっちから行つて、次に行こう」と譲ったり交渉したりする姿も見られました。活動が進むにつれて、アイテムが見つかった時にはうれしさを共有する姿や、なかなか見つからない時には、「○○どこにあった？」と他のグループから情報を集める姿なども出てきました。

ほかほかタイムでは、よほど危険な様子ではない限り教職員は見守り、相談されたら対応することになっています。すぐに声をかけずに様子を見守ることで、子どもたちなりに解決策を見いだしたり、誰かに相談したりする姿が見られます。その経験の中で、ルールを守ることや、気持ちに折り合いを付けることなどを学んでいくことを大切にしています。



活動の振り返り

活動後に、各グループで振り返りを行いました。今回は「わくわくしたこと」、「困ったこと」をテーマに5歳児が進行役にチャレンジ。どんなことがあったか一人ずつ聞いたり、聞いたことに共感したりしてくれる5歳児の進行に安心して、4歳児も自分の思いを一生懸命伝えていました。

最後には、各

グループの5歳児が発表をしたのですが、自分のグループが発表する時に、4歳児の子どもたちが自然と5歳児が見やすいようにメモをしていたホワイトボードを持つ姿も見られました。



成長する子どもたち

異年齢交流の活動を通して、自分たちで考え進め

ていく楽しさや、相手のことを考えながら行動すること、自分とは違う思いや感じかたがあることに気付くことなど、大切なことをたくさん学んでいます。また、活動を重ねることに関係も深まり、日頃の遊びでも声をかけ合って一緒に遊ぶ姿も見られます。

クラスの中で見せる姿とは、また違った姿を見せてくれる異年齢活動。子どもたちがお互いを思いやり、自分たちで進めていく楽しさを感じられるよう、今後も内容を工夫しながら取り組んでいきたいと思っています。

(かやの幼稚園長 廣田 尚美)



学級づくり

「シンキングエラーを知って
トラブルを防ごう」
(箕面小学校)

シンキングエラーとは

シンキングエラーとは「相手や自分の気持ちを大切にすることができず、誤った考えかたをしている状況」のことで、そのことが原因でトラブルに発展することが日常生活の中でもよくあります。シンキングエラーは、共感性の欠如や人間関係のスキルの不足から起こります。例えば、いじめの加害者が「いじめじゃなくて遊びだ」とか「みんながやっているから問題ない」と自分のことを正当化することなどが挙げられます。子どもたちに、身の回りで起こっているトラブルがシンキングエラーによるものが多いことをまず知ってもらい、そして、「自分勝手な考えになっていないか、相手はどんなことを思っているのか」と一旦立ち止まり、その先の自分の行動をより良い方向に向けることをねらいに、この学習に取り組みしました。

シンキングエラーの例

廊下で鬼ごっこをしていたAが、教室から出てきたBにぶつかって転んだ。そこで鬼にタッチされてAは鬼になってしまった。Aは「Bのせいで鬼になった」とBへの文句を周りの友だちに言いふらした。

子どもたちの日常で起こっているような事例を教職員がロールプレイングした動画を見て、シンキングエラーに気づく活動をしました。子どもたちは、A・Bそれぞれの立場になって気持ちを考えていました。また、「シンキングエラーとは『自分勝手な正当化』であり、その考えは間違っている」ということに気がつくことができました。



シンキングエラーの先にあるものは

前時では登場人物の気持ちについて考えましたが、今回は客観的に事象を見て、この後どんな展開になるかを考えました。「辛い気持ちになったBが学校を休む」、「Aが逆に周りから嫌われる」など、良くない結末が待っていることも予想されました。「自分にとって納得にいかない出来事が起こり」、「シンキングエラーが起こり」、それが「良くない行動につながり」、「トラブルが発生する」という流れを確認しました。

トラブルを回避するためには

納得のいかない出来事が起こってしまうことは回避できないとしても、その後、トラブルが発生するまでに、自分で断ち切ることができるタイミングはないだろうか、トラブルを回避するためにはどうしたらいいかを考えました。「自分の行動を振り返る」、「相手の気持ちを考える」ということが大事だということを確認した後、「納得いかない出来事に直面したとき、自分ならどうするか」を具体的に考えることができました。

(箕面小学校教諭 安達 香里)

あすチャレ！スクール
～挑戦することの意義とは～
(豊川北小学校)

「あすチャレ！スクール」とは、日本財団パラスポーツサポートセンターが主催するプログラムで、子どもたちに、パラスリートとの交流を通じ、共生社会への気づきと学びの機会を提供できるよう、全国の小中高등학교等を対象に行うパラスポーツ体験型出前授業です。共生社会とは、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様なありかたを相互に認め合える全員参加型の社会のことです。

講師 (6月5日、8日、9日実施分)

根本 慎志 さん

・シドニー世界車いすバスケットボール選手権大会出場

・シドニーパラリンピック男子車いすバスケットボール日本代表チームキャプテン

※高校3年生時に、突然の交通事故で脊髄を損傷。

講師 (6月6日実施分)

神保 康広 さん

・パラリンピック男子車いすバスケットボール元日本代表

・パラリンピック4大会(バルセロナ・アトランタ・シドニー・アテネ)出場

・全米車いすバスケットボール協会 デンバーナゲッツ在籍時、全米選手権ベスト4

・マレーシア車いすバスケットボールナショナルチームコーチを経験

※16歳の時にバイクの自損事故で下半身麻痺に。

今回は、6月6日(火)に豊川北小学校の4年生を対象に行われた際の様子を紹介します。

豊川北小学校の4年生は総合的な学習の時間において障害理解教育と福祉教育に取り組んでいます。その一環として、この日、パラリンピック日本代表として4大会に出場された経歴を持つ神保康広さんを学校にお招きしました。車いすバスケットボールの体験や神保さんのお話などを通して障害とは何か、挑戦することの意義とは何かについて考えました。

神保さんから子どもたちに「興味のあるものを見つけて楽しもう!」、「『知識』と『経験』は人生の宝物だ!」と力強いメッセージをいただきました。神保さんが車いすを巧みに操作し、速く移動したり急に止まったりすることができると子どもたちは驚いた様子でした。しかしながら、町の中には気づかれにくいところで段差があったり手が届かなかったりと、車いすを利用する人が不便に感じていることが多いそうです。私たちみんなの課題として子どもたちと一緒に考えていきたいです。

車いすバスケットボールの体験では、試合に参加した子どもたちだけではなく、参加していない子どもたちも一生懸命応援を頑張る姿が素敵でした。スペシャルマッチでは、教職員も白熱した戦いを見せていました。楽しく学びの多い時間となりました。



子どもたちからの感想

- ・何回でもチャレンジをして、何回でも失敗してもいいことを学びました。「失敗はわるいことじゃない」と(神保さんから)聞いたので、これからはどんなことにもちようせんしたいです。
- ・車いすは、ちょっとした段差でも進むことができないということを学びました。今度こまってる人に気づいたら、たすけたいと思いました。
- ・わたしはできないことがあったら、すぐやめてしまいうせがあります。だからジンちゃん(神保さん)は希望の人だと思いました。「うまくいかなかったり、くやしかったりする時も前を向いてがんばる」という言葉に感動しました。
- ・車いすの人もわたしたちとあまり変わらないということがわかりました。足が動かなかった人や、足がなくなってしまう人でもジンちゃんみたいに明るく楽しくスポーツができるんだと思いました。
- ・わたしも車いすバスケットをしました。ジンちゃんのバスケットをする姿がとてもカッコよかったです。授業がとても楽しかったです。

(豊川北小学校教頭 井田 淳子)



いきいきさわやかに学ぶ会
「つながっている」

「こころとからだ」
「こころを見よう」
「からだに聴こう」

「いきいきさわやかに学ぶ会」は、保護者のみなさま対象の人権をテーマにした学習会です。身近に人権を考えていただける機会となるよう、年間6回(うち一回は、みのお市民人権フォーラム実行委員会主催の「みのお市民人権フォーラム」として)実施しています。

その中から、10月17日(火)に実施した第4回の講演を紹介します。講師である金泰子さんは、小児の心身症と発達障害を専門領域とする小児科医として、大病院やその他の病院に勤務しながら、重度心身障害者(成人)の通所施設や障害児の療育施設、教育機関でも活動されています。

講演は、発達障害のある子のこころとからだについて、金先生が出会った人々とのエピソードやご自身の子育ての経験のお話も交えながら、終始、明るく和やかな雰囲気の中で進められました。

金先生のお話より

重度の運動麻痺があり、明瞭な発話が難しいAさんとの出会い。ある日、Aさんが、振り絞るような声で私を呼び止めました。いつもなら、診察が一段落すると、施設のあちこちの部屋を覗き、患者さんとおしゃべりする私が、職員室から出ていかない日が多くなっていたことが気になったようです。「大好きなお父さんが死んでね。とっても悲しくて、だれと話しても涙が出てしまうから、今は人に会いたくないの」と正直に答えると、Aさんは一生懸命、時間をかけてこう言ってくれたんです。「金先生、ぼくは何もしてやられへんけど、つらいときは話くらい聞いてやる。話したくなったらぼくを呼んで」。私の目からは涙がポロポロ。何か助けになればという思いで仕事をしていたが、動けない人々だからこそ、定点から私を見つめ、変化に気づき、思いやってくれていることがわかったからです。いつも教えられ、助けられ、救われているのは私のほうだということにも気づかされました。

金先生は小児科医となり、多くの障害や難病のある人たちとの関わる中で、障害についてや、医師として人としての自分の生きかたについて、より

深く考えるようになったと述べられました。「子育てや仕事でいっぱいいて心に余裕がないとき、見守っているつもりが、見守られていた」、「自分は（人に）きちん伝え、聴けているのか」、「障害というと、これができないから他のこともできないだろう、知らないだろうと思いついていないか？」等々、ご自身がはつと気づかされたり、自問自答することが多くあったということです。

また、発達障害について、診断は大切であるがゴールではなく、発達障害のある人を理解し支援する過程のひとつのステップであるということ、診断がレッテル貼りに終わったり、区別や差別につながったりするのではなく、子どもの特性を理解し、子どもと保護者の支援に役立つものになるような配慮が必要であるということも述べられました。

学校における合理的配慮についての説明もされました。「合理的配慮とは、障害のある子どもが、他の子どもと平等に教育を受ける権利を行使するため、実施に伴う負担が過重でない時は社会的障壁の除去の実施について、学校が行う必要な変更や調整です。合理的配慮の観点に立ち、本人の努力と根性・忍耐だけでなく、過ごしやすい・やりやすい環境を考え・整えることが必要です。環境を工夫すると、出来ないと思われていた事ができるよう

になることもあります。また、何に困っているのかかわければ、苦手なことの代わりになる手段を見つけられることもあります。合理的配慮を行うことで、子どもが感じる負担や不安が軽減され、子どもの『できる！やりたい！』が増える事があります』とお話されました。

最後に親子の関係について、「子どもは成長の過程で、困っていることを伝えられず、心の不調や身体症状・行動の問題として現れたり、そうした子どもの不調が親の不安や緊張を招き、それが子どもの更なる不調につながる悪循環に陥ったりすることもあります。また、見守る人の視線がある子は正しく育ちます。喜びを共有しあう経験を豊かにすると、悲しみを分かち合う感情（思いやりのこころ）が発達します。親から大切に育てられた実感がある若者は、自尊心・自己肯定感が高く、将来の夢や希望、意欲が豊かになります。」とお話され、「親が子を愛せない時期があるならば、周囲の大人が子どもを愛したらいいのでは？」、「子育てが難しいと悩む時は、かかえ込まずに相談してほしい」、「『わたし』自身を、大切に愛しましょう」との参加者へのエールをもって講演は終了しました。



参加者からの感想

・お話を伺いながら、自身の子育ての体験、自分の子ども時代の経験、自分が親から言われたことなどを重ね合わせました。我が子にかける言葉の配慮の足りなさや、こちらの言動をじっと観察する子どもの視線を思い出したりして、今日伺った話を時々思い出す必要があるなと感じました。また、診察時など子どもと接する際の先生のエピソードからは、専門家ならではの高い職業意識が感じられ、自分もこうありたいものだなと考えさせられました。

・今回、金先生のお話を聴かせていただき、疾患や合理的配慮のこと等たくさんの方の知識を得ることができました。また、ご自身の子育てや児童・生徒さんとのエピソードは、どれも心に響くものでした。自分も仕事をしながら子育てする身なので共感することが多く、特に感覚が過敏過ぎたり衝動的過ぎる次女を重ね合わせたリして、「自分だけではない」という安心感を感じたからだと思います。これから子どもがでけるだけ孤独を感じることのないよう、大切に思っていることを伝え、各々に合わせた環境を調整していけたらよいなあと思いました。

学校図書館司書コーナー

「本を通じてお互いを知る」

～校内ビブリオバトル大会～

(第二中学校)

第二中学校では、「校内ビブリオバトル大会」を開催しました。ビブリオバトルとは、バトラーと呼ばれる挑戦者が本を紹介し、観客が一番読みたくなった本に投票して一位のチャンプ本を決めるという、本を使ったコミュニケーションゲームです。二中では有志の生徒・教職員がバトラーになり、体育館で行いました。

主催は図書委員会。主に2年生を中心にポスター作りから会場設営、司会と自分たちで準備をすめ、観客が来てくれるのか不安もありながら大会を成功させようと頑張っていました。

2年生は1年生時の国語科でもビブリオバトルを行っており、「これビブリオで紹介した本やねん」と自分が選んだ本について図書館でよく話してくれまう。友だちが紹介した本のこともよく覚えており、本に対して興味を持つきっかけになっていたのだと感じました。

いざ大会が始まると、バトラーたちが楽しく、熱く、本の魅力を伝える姿に、観客も真剣に聞き入ったり質問の答えに笑ったりと、みんなで読書の楽しさを共有できる貴重な機会となりました。普段、本を読まない生徒にも読書をこんなに楽しんでいる人がいるのだ、と知ってもらうことができたのではないでしょう。決勝戦は教職員と生徒の戦いでしたが、生徒が紹介した『天(あめ)と地(つち)の方程式(ほうていしき)』(富安陽子著)がチャンプ本となり、これもまた嬉しい結果でした。

図書委員から「楽しかった」、「またやりたい」という感想が多く、さっそく次回に向けて改善点を箇条書きにしてくれた子もいたほどです。無事に運営できた達成感が自信につながったようでした。

2年生はこの後も国語科でビブリオバトルを行うことになり、図書館に本を探しにきていました。本を選びながら「この本好きだったんだよね」と思い出したり、「これ読んでみたい」と興味のある本を発見したりと、自然に本と自分をつなげていく様子が見られました。

人に薦める本を選ぶということは、自分が興味を持っているものはなにか、好きなことはなにかを考え、今まで気がつかなかった自分に向き合うことでもあります。本を読んで感じた思いを相手に伝え、自分自身を知ってもらうことにもつながります。実際の

授業で生徒たちは、表情も豊かに自分を表現していました。全員がバトラーとなって本を紹介し合い、本を通じてお互いを知ることができたでしょう。読書には今まで気がつかなかった自分の思いに気づき、考えが広がっていく楽しさがあります。学校図書館は、本と人をつなぎ、読書活動を通じてお互いを尊重しあえる土壌を作ることができる場所でありたいと思います。

(第二中学校図書館司書 加藤 尚子)



編集後記

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に位置づけられ、学校園所において、人権教育の取組みがより一層推進されています。子どもたちは、人と人との「対話」や「出会い」、「体験活動」を通じて、自他ともに大切な存在であることに気づいたり、自分自身の生きかたについて深く考えたりしています。また、子どもたちは、学校園所だけでなく、多くの時間を家庭や地域社会で過ごしています。今後も、学校園所や家庭、地域社会が一体となり、子どもたちの成長を見守り、支えていく環境や人と人のつながりを育ていけるよう、「はじけるころ」を通じて、様々な取組みを学校園所や地域のみなさまに紹介させていただきます。

執筆や編集等にご協力いただいたみなさま、誠にありがとうございました。

「はじけるころ vol.56」はいかがでしたか？

みなさんのご意見・ご感想をお聞かせください。以下の①～④の内容を、郵送、ファクスまたはEメールにてお送りください。これからも人権教育に関心をもっていただける記事を掲載したいと思っておりますので、ぜひともお言葉をいただけることを編集委員一同お待ちしております。

- ①お名前（無記名でも構いません）
- ②ご意見・ご感想
- ③「はじけるころ」の入手方法、
- ④ご意見・ご感想掲載の可否について



〒562-0015 箕面市稲 1-14-5 箕面市教育委員会人権施策室
FAX : 072-725-8360
Email : edujinken@maple.city.minoh.lg.jp